



- 本資料は、サノフィ(フランス、パリ)が2014年10月28日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・編集し、11月10日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本語で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。
- クリストファー・A・ヴィーバッハーは2014年10月29日付で退任し、同日より取締役会会長のセルジュ・ヴァンベルグが暫定CEOを兼任しています。

## 2014年度第3四半期に1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>が10.3%成長(CERベース)

### 第3四半期に売上高と1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>が堅調に成長(CERベース)

- グループの売上高<sup>(2)</sup>は、5.1%増の87億8,100万ユーロ
- 成長基盤<sup>(3)</sup>は、10.0%増の68億6,200万ユーロで、総売上高に占める割合は78.1%
- 事業純利益<sup>(1)</sup>は、9.4%増の19億3,500万ユーロ(調整前7.8%増)
- 1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>は、為替レート変動の影響を除き10.3%増の1.47ユーロ

### 成長基盤の売上高が堅調に成長

- 糖尿病は、米国での価格競争の激化にもかかわらず8.3%増の17億9,900万ユーロ
- ワクチンの売上高は、インフルエンザワクチンの好業績と段階的な供給回復に牽引され11.2%増
- ジェンザイムは、24.6%増と今期も好業績を達成
- 動物用医薬品は、米国市場での好調な売上高を受けて12.7%増

### 新薬を市場に投入する上で大きな進展を達成

- ゴーシェ病1型成人患者に対する唯一の経口治療薬であるCerdelga<sup>TM</sup>が米国で承認される
- alirocumabに関する4件のピボタル第III相試験の詳細な結果が欧州心臓病学会(ESC)で発表される
- 中南米での Deng 熱ワクチンに関する最終の画期的な第III相有効性試験が順調に完了
- 中等度から重度までのアトピー性皮膚炎に対する治療薬候補の dupilumab が第III相に入る
- 新興市場向けに開発中のロタウイルスワクチンが第III相に入る
- 新しい吸入速効型インスリンの Afrezza<sup>®</sup>に関して世界的なライセンス契約を発表

### 2014年通年の財務見通しを確認

- 重大な予期せぬ要因が発生しない限り、2014年度の1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>は前年比で6%~8%程度(為替レート変動の影響を除く)増加するものと予想されます。

### サノフィ最高経営責任者(CEO)のクリストファー・A・ヴィーバッハーのコメント:

「第3四半期に好業績を達成することができ、嬉しく思います。成長基盤の大きな貢献に牽引され、堅調な1株当たり事業純利益を達成し、2014年度通年の見通しを確認することができました。成長基盤は10%増加し、売上高に占める割合が78%に達しました。最近、米国の糖尿病領域では価格競争が激化しており、2015年度の同事業の売上高にも影響が生じる見通しですが、世界的に見ると、成長基盤は引き続き堅調に成長すると予測されます。同時に、パイプラインは順調に成果を上げており、alirocumabと Deng 熱ワクチンに関して有望な第III相データを発表すると共に、dupilumabに関して第III相試験を開始し、Cerdelga<sup>TM</sup>に関して米国食品医薬品局(FDA)の承認を取得し、Afrezza<sup>®</sup>のライセンスを取得しました」

(1)財務指標の定義は付録8を参照(2)特に指定のない限り、純売上高の増加は為替レートの変動影響を除いて(CER)算出(定義は付録8を参照)(3)2ページを参照

## 2014年度第3四半期および年初から9カ月間の売上高

	2014年度 第3四半期	前年同期比 (調整前)	前年同期比 (CER)	2014年度 年初から 9カ月間	前年同期比 (調整前)	前年同期比 (CER)
純売上高	€8,781m	+4.1%	+5.1%	€24,698m	+0.8%	+5.0%
事業純利益 <sup>(1)</sup>	€1,935 m	+7.8%	+9.4%	€5,019m	+3.0%	+9.3%
1株当たり事業純利益 <sup>(1)</sup>	€1.47	+8.1%	+10.3%	€3.81	+3.5%	+10.1%

当グループの業績をわかりやすく示すため、事業純利益計算書について説明します。事業純利益<sup>(1)</sup>は、GAAP(一般会計原則)に調整を加えた財務指標です。2014年度年初から9カ月間の連結損益計算書については付録4に、事業純利益から連結純利益への調整については付録3に記載しています。2014年度年初から9カ月間の連結純利益は、前年同期の26億5,600万ユーロに対し、30億5,100万ユーロでした。2014年度年初から9カ月間の連結1株当たり利益は、前年同期の2.01ユーロに対し、2.32ユーロでした。2014年度第3四半期の連結1株当たり利益は、前年同期の0.92ユーロに対し、0.91ユーロでした。

## 2014年度第3四半期および年初から9カ月間の売上高

特に指定のない限り、当プレスリリースの売上高伸長データは、為替レート変動の影響を排除して<sup>(1)</sup>算出しています。

2014年度第3四半期における売上高は、前年同期比(調整前)4.1%増の87億8,100万ユーロとなりました。為替レートの変動(アルゼンチン・ペソ、日本円、ロシア・ルーブルをはじめとする他の通貨に対するユーロ高)により、1.0ポイントのマイナスの影響を受けました。

年初からの売上高は、前年同期比(調整前)0.8%増の246億9,800万ユーロとなりました。為替レートの変動により、4.2ポイントのマイナスの影響を受けました。

### 成長基盤

2014年度第3四半期におけるグループの成長基盤の売上高は、ジェンザイム(24.6%増)、ワクチン(11.2%増)、動物用医薬品(12.7%増)、その他の革新的製品(18.0%増)に牽引され、10.0%増の68億6,200万ユーロとなりました。第3四半期にグループの成長基盤が連結売上高全体に占める割合は、前年同期の74.7%から78.1%に増加しました。2014年度年初から9カ月間における成長基盤の売上高は、10.8%増の188億100万ユーロであり、連結売上高全体に占める割合は、前年同期の72.5%から76.1%に増加しました。

(単位:100万ユーロ)	2014年度 第3四半期 純売上高	前年同期比 (CER)	2014年度 年初から9カ月間 純売上高	前年同期比 (CER)
糖尿病	1,799	+8.3%	5,249	+12.5%
ワクチン	1,451	+11.2%	2,797	+4.1%
コンシューマー・ヘルスケア(CHC)	819	+12.9%	2,520	+17.3%
ジェンザイム	649	+24.6%	1,858	+25.1%
動物用医薬品	515	+12.7%	1,569	+5.3%
その他の革新的製品 <sup>(a)</sup>	227	+18.0%	606	+17.9%
新興市場 <sup>(b)</sup>	2,776	+7.6%	8,221	+9.9% <sup>(c)</sup>
—糖尿病、ワクチン、CHC、動物 用医薬品、ジェンザイム、その他の 革新的製品	1,374	+14.0%	4,019	+14.8%
—その他の製品	1,402	+2.0%	4,202	+5.5%
<b>成長基盤合計</b>	<b>6,862</b>	<b>+10.0%</b>	<b>18,801</b>	<b>+10.8%</b>

<sup>(1)</sup> 財務指標の定義は付録8を参照

- (a) 上記のその他の成長基盤に属さない 2009 年以降に発売された製品、すなわち Multaq<sup>®</sup>、Jevtana<sup>®</sup> (ジェブタナ)、Zaltrap<sup>®</sup>、Auvi-Q<sup>™</sup>、および Mozobil<sup>®</sup>を含む
- (b) 米国、カナダ、西欧諸国、日本、オーストラリア、ニュージーランドを除く各国
- (c) ブラジルのジェネリック医薬品を除くと、2014 年度年初から 9 カ月間の新興市場の売上高は 6.1%増

## 医薬品

第 3 四半期における医薬品事業の売上高は、新興市場に牽引され、3.4%増の 68 億 1,500 万ユーロとなりました。年初からの医薬品事業の売上高は、5.1%増の 203 億 3,200 万ユーロとなりました。

### 糖尿病領域

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 3 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)	2014 年度 年初から 9 カ月間 純売上高	前年同期比 (CER)
Lantus <sup>®</sup> (ランタス)	1,567	+8.1%	4,572	+12.5%
Amaryl <sup>®</sup> (アマリール)	87	-2.2%	269	+0.7%
Apidra <sup>®</sup> (アピドラ)	88	+21.9%	240	+20.3%
Insuman <sup>®</sup>	34	0.0%	99	+3.0%
BGM(血糖測定器)	14	+25.0%	46	+34.3%
Lyxumia <sup>®</sup> (リクスミア)	8	-	19	-
<b>糖尿病領域合計</b>	<b>1,799</b>	<b>+8.3%</b>	<b>5,249</b>	<b>+12.5%</b>

第 3 四半期における**糖尿病領域**の売上高は、8.3%増の 17 億 9,900 万ユーロでした。糖尿病領域の年初来の売上高は、12.5%増の 52 億 4,900 万ユーロでした。第 3 四半期における **Lantus<sup>®</sup>**(ランタス)の売上高は、8.1%増の 15 億 6,700 万ユーロとなりました。第 3 四半期における米国での **Lantus<sup>®</sup>**(ランタス)の売上高は、保険支払者レベルで競争圧力が高まっていることを反映し、5.8%増の 10 億 4,200 万ユーロとなりました。**Lantus<sup>®</sup> SoloSTAR<sup>®</sup>**(ランタス注ソロスター)が **Lantus<sup>®</sup>**(ランタス)の売上高全体に占める割合は、前年同期の 57.4%に対し、62.2%となりました。新興市場での **Lantus<sup>®</sup>**(ランタス)の売上高は、中国、トルコ、中東、メキシコ、アフリカでの好業績を反映し、19.7%増の 2 億 3,200 万ユーロとなりました。西欧諸国での **Lantus<sup>®</sup>**(ランタス)の売上高は、ドイツ、フランス、イタリアに牽引され、9.5%増の 2 億 2,200 万ユーロと好業績を記録しました。年初からの **Lantus<sup>®</sup>**(ランタス)の売上高は、12.5%増の 45 億 7,200 万ユーロとなりました。

サノフィは最近、米国で保険支払者との交渉を完了し、**Lantus<sup>®</sup>**(ランタス)に関して、主要な保険支払者で有利な保険償還の位置付けを確保しました。この位置付けを維持するために必要な割り戻しのレベルは、競合他社の積極的な値引きのために大幅に上昇しています。この割り戻しによって、グループの 2014 年度通年の 1 株当たり事業純利益に変更が生じることはありません。2015 年度も、引き続き米国での割り戻し増加と医療費負担適正化法の影響を受ける見込みです。サノフィは、新興市場の堅調な成長を維持すると共に、**Toujeo<sup>®</sup>**および **Afrezza<sup>®</sup>**の発売を通じて、2015 年度の糖尿病領域に対するこの影響を緩和しようと考えています。そのため、糖尿病領域の世界的な売上高は、2015 年度もおおむね一定と考えられます。

第 3 四半期における **Amaryl<sup>®</sup>**(アマリール)の売上高は、2.2%減の 8,700 万ユーロでした。新興市場での **Amaryl<sup>®</sup>**(アマリール)の売上高は、6.2%増の 6,800 万ユーロとなりました。年初からの **Amaryl<sup>®</sup>**(アマリール)の売上高は、0.7%増の 2 億 6,900 万ユーロでした。

**Apidra<sup>®</sup>**(アピドラ)の売上高は、21.9%増の 8,800 万ユーロとなりました。同製品は、すべての地域で堅調な成長を記録しました。米国での売上高は、20.7%増の 3,500 万ユーロでした。新興市場での売上高は 25.0%増の 1,900 万ユーロ、西欧諸国での売上高は 19.0%増の 2,600 万ユーロでした。年初からの **Apidra<sup>®</sup>**(アピドラ)の売上高は、20.3%増の 2 億 4,000 万ユーロとなりました。

**Lyxumia<sup>®</sup>**(リクスミア)の第 3 四半期の売上高は 800 万ユーロ、年初からの売上高は 1,900 万ユーロでした。

8 月、サノフィと MannKind 社は、成人の 1 型および 2 型糖尿病患者さんを対象とした新しい吸入用速効型インスリン治療薬である **Afrezza<sup>®</sup>**の開発および販売に関し、世界的な独占的ライセンス契約を締結しました。両社は、2015 年度第 1 四半期に米国で **Afrezza<sup>®</sup>**を発売する予定です。提携およびライセンス契約の下で、サノフィは、世界的な販売、薬事、開発活動を担当します。

## コンシューマー・ヘルスケア

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 3 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)	2014 年度 年初から 9 カ月間 純売上高	前年同期比 (CER)
Allegra®(アレグラ)	78	+31.7%	276	+30.4%
Doliprane®	74	+4.2%	232	+5.4%
Essentiale®	53	+46.2%	174	+32.0%
Enterogermina®	48	+53.1%	122	+28.0%
No Spa®	31	+6.3%	84	+9.3%
Lactacyd®(ラクタシード)	24	-3.7%	81	+15.4%
Nasacort®	23	-	91	-
Maalox®	23	+9.5%	73	+11.6%
Dorflex®	18	-25.0%	68	+10.0%
その他の CHC 製品	447	+4.1%	1,319	+8.6%
<b>コンシューマー・ヘルスケア合計</b>	<b>819</b>	<b>+12.9%</b>	<b>2,520</b>	<b>+17.3%</b>

第 3 四半期におけるコンシューマー・ヘルスケア (CHC) 製品の売上高は、12.9%増の 8 億 1,900 万ユーロとなりました。前年同期に処方薬として計上されていた複数の製品 (売上高の合計 6,400 万ユーロ) がコンシューマー・ヘルスケア製品に変更されました。このカテゴリー変更を除外すると、コンシューマー・ヘルスケアの売上高は、米国での Nasacort® のスイッチ OTC 薬の成功と新興市場における好業績 (7.8%増) に牽引され、4.0%増となりました。2 月に米国で OTC 医薬品として提供が開始された Nasacort® Allergy 24HR 点鼻薬の第 3 四半期における米国での売上高は、1,800 万ユーロでした。

年初からの CHC の売上高は、17.3%増の 25 億 2,000 万ユーロでした。上記のカテゴリー変更 (2013 年の年初 9 カ月間の売上高 2 億 500 万ユーロ) を除くと、CHC の売上高は、7.6%増でした。

## ジェンザイム

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 3 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)	2014 年度 年初から 9 カ月間 純売上高	前年同期比 (CER)
Cerezyme®(セレザイム)	175	+9.1%	518	+8.3%
Myozyme®(マイオザイム)/ Lumizyme®	138	+9.4%	392	+9.2%
Fabrazyme®(ファブラザイム)	116	+21.9%	337	+26.2%
Aldurazyme®(アウドラザイム)	41	+7.9%	127	+13.8%
希少疾患合計	530	+10.9%	1,553	+11.8%
Aubagio®	112	+156.8%	287	+205.2%
Lemtrada™	7	-	18	-
多発性硬化症合計	119	+175.0%	305	+224.7%
<b>ジェンザイム合計</b>	<b>649</b>	<b>+24.6%</b>	<b>1,858</b>	<b>+25.1%</b>

第 3 四半期におけるジェンザイムの売上高は、Aubagio® および Fabrazyme® (ファブラザイム) の成長によって牽引され、24.6%増の 6 億 4,900 万ユーロとなりました。売上高は、米国では 28.2%増の 2 億 5,900 万ユーロ、西欧諸国では 25.0%増の 2 億 700 万ユーロ、新興市場では 19.8%増の 1 億 2,400 万ユーロでした。年初からのジェンザイムの売上高は、25.1%増の 18 億 5,800 万ユーロとなりました。

第 3 四半期における Cerezyme® (セレザイム) の売上高は、西欧諸国の 2 桁成長 (15.4%増の 6,000 万ユーロ) を反映し、9.1%増の 1 億 7,500 万ユーロとなりました。Cerezyme® (セレザイム) の売上高は、新興市場では 7.0%増の 5,600 万ユーロ、米国では 4.3%増の 4,800 万ユーロとなりました。年初からの Cerezyme® (セレザイム) の売上高は、8.3%増の 5 億 1,800 万ユーロとなりました。8 月、FDA は、ゴーシェ病 1 型成人患者のための唯一の経口治療薬である Cerdelga™ を承認しました。ゴーシェ病 1 型成人患者の大部分に、米国で提供が開始された Cerdelga™ が適しています。

Fabrazyme® (ファブラザイム) は、第 3 四半期も好業績を達成し、売上高は、西欧諸国 (40.0%増の 2,800 万ユーロ) と新興市場 (33.3%増の 1,500 万ユーロ) に牽引され、21.9%増の 1 億 1,600 万ユーロとなりました。米国における

Fabrazyme<sup>®</sup>(ファブラザイム)の売上高は、14.0%増の 5,800 万ユーロでした。年初からの Fabrazyme<sup>®</sup>(ファブラザイム)の売上高は、26.2%増の 3 億 3,700 万ユーロとなりました。

第 3 四半期における Myozyme<sup>®</sup>(マイオザイム)/Lumizyme<sup>®</sup>の売上高は、新興市場(42.1%増の 2,500 万ユーロ)に牽引され、9.4%増の 1 億 3,800 万ユーロとなりました。米国での売上高は 9.4%増の 3,500 万ユーロ、西欧諸国での売上高は 1.5%増の 6,900 万ユーロでした。年初からの Myozyme<sup>®</sup>(マイオザイム)/Lumizyme<sup>®</sup>の売上高は、9.2%増の 3 億 9,200 万ユーロとなりました。

第 3 四半期における Aubagio<sup>®</sup>の売上高は、前年同期の 4,400 万ユーロに対し、1 億 1,200 万ユーロでした。第 3 四半期における Aubagio<sup>®</sup>の米国での売上高は、前年同期の 4,400 万ユーロに対し、8,700 万ユーロでした。2013 年度第 4 四半期に同製品が発売された西欧諸国では、第 3 四半期における同製品の売上高が 1,800 万ユーロに達しました。同製品は現在、米国、ドイツ、スイス、北欧諸国、カナダ、アルゼンチン、およびオーストラリアで販売されています。年初からの Aubagio<sup>®</sup>の売上高は、205.2%増の 2 億 8,700 万ユーロとなりました。

10 月、FDA は、米国における Aubagio<sup>®</sup>のラベルに TOWER 試験および TOPIC 試験の有効性および安全性データを盛り込むことを承認しました。Aubagio<sup>®</sup>は、再発性多発性硬化症患者を対象とした 2 件の第 III 相試験(TEMPO 試験および TOWER 試験)において身体障害の進行を有意に遅らせ、初期の多発性硬化症に関する肯定的データがラベルに記載されている唯一の経口治療薬です。

Lemtrada<sup>™</sup>の第 3 四半期の売上高は 700 万ユーロ、年初からの売上高は 1,800 万ユーロでした。5 月、再発性多発性硬化症の治療薬としての Lemtrada<sup>™</sup>の承認を求める生物学的製剤追加承認申請(sBLA)の再提出が FDA に受理されました。Lemtrada<sup>™</sup>の sBLA には、6 カ月間の審査期間が割り当てられています。

## その他の革新的製品<sup>(4)</sup>

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 3 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)	2014 年度 年初から 9 カ月間 純売上高	前年同期比 (CER)
Multaq <sup>®</sup>	76	+13.4%	215	+11.1%
Jevtana <sup>®</sup> (ジェブタナ)	67	+15.3%	199	+23.6%
Auvi-Q <sup>™</sup>	37	+26.7%	63	+32.7%
Mozobil <sup>®</sup>	29	+20.0%	80	+7.9%
Zaltrap <sup>®</sup>	18	+30.8%	49	+28.9%
その他の革新的製品合計	227	+18.0%	606	+17.9%

その他の革新的製品の売上高は、第 3 四半期は 18.0%増の 2 億 2,700 万ユーロ、年初から 9 カ月間は 17.9%増の 6 億 600 万ユーロでした。

第 3 四半期における Multaq<sup>®</sup>の売上高は、13.4%増の 7,600 万ユーロとなりました。年初からの同製品の売上高は、11.1%増の 2 億 1,500 万ユーロでした。

第 3 四半期における Jevtana<sup>®</sup>(ジェブタナ)の売上高は、西欧諸国と新興市場での発売に支えられ、15.3%増の 6,700 万ユーロとなりました。年初からの Jevtana<sup>®</sup>(ジェブタナ)の売上高は、23.6%増の 1 億 9,900 万ユーロでした。

第 3 四半期における Auvi-Q<sup>™</sup>の売上高は、26.7%増の 3,700 万ユーロでした。年初からの同製品の売上高は、32.7%増の 6,300 万ユーロでした。

第 3 四半期における Zaltrap<sup>®</sup>の売上高は、西欧諸国での最近の発売による牽引が米国での売上高低下を相殺し、30.8%増の 1,800 万ユーロとなりました。年初からの同製品の売上高は、28.9%増の 4,900 万ユーロでした。

## その他の医薬品

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 3 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)	2014 年度 年初から 9 カ月間 純売上高	前年同期比 (CER)
Plavix <sup>®</sup> (プラビックス)	450	+9.0%	1,362	+5.8%
Lovenox <sup>®</sup>	426	+7.2%	1,263	+2.9%

<sup>(4)</sup> その他の成長基盤に属さない最近の製品発売を含む

Aprovel®/Avapro®	178	-14.8%	550	-17.9%
Renvela®/Renagel® (レナジェル)	162	-13.4%	471	-9.0%
Synvisc® (サイビスク) /Synvisc-One®	88	-2.2%	251	-4.8%
Myslee® (マイスリー) /Ambien®/Stilnox®	78	-16.0%	229	-15.3%
Taxotere® (タキソテール)	59	-28.6%	195	-31.7%
Eloxatin®	43	-12.0%	136	-14.2%
Allegra® (アレグラ)	32	-52.1%	151	-47.6%

第3四半期における **Plavix®** (プラビックス) の売上高は、新興市場 (21.3%増の 2 億 300 万ユーロ) と日本 (8.7%増の 1 億 9,000 万ユーロ) に牽引され、9.0%増の 4 億 5,000 万ユーロとなりました。新興市場における同製品の業績は、中国 (47.1%増の 1 億 2,500 万ユーロ) に牽引されました。年初からの **Plavix®** (プラビックス) の売上高は、5.8%増の 13 億 6,200 万ユーロとなりました。

第3四半期における **Lovenox®** の売上高は、中国と中南米に牽引されて売上高が 16.9%増の 1 億 4,700 万ユーロとなった新興市場の好業績に維持され、7.2%増の 4 億 2,600 万ユーロとなりました。西欧諸国における同製品の売上高は、5.8%増の 2 億 2,100 万ユーロとなりました。年初からの **Lovenox®** の売上高は、2.9%増の 12 億 6,300 万ユーロでした。

第3四半期における **Aprovel®/Avapro®** の売上高は、ジェネリック医薬品との競合により西欧諸国での売上高が 47.4%減の 4,100 万ユーロとなったことを受けて、14.8%減の 1 億 7,800 万ユーロとなりました。新興市場における **Aprovel®/Avapro®** の売上高は、中国に牽引され、9.3%増の 1 億 500 万ユーロとなりました。年初来の **Aprovel®/Avapro®** の売上高は、17.9%減の 5 億 5,000 万ユーロでした。

第3四半期における **Renvela®/Renagel®** (レナジェル) の売上高は、13.4%減の 1 億 6,200 万ユーロでした。米国における同製品の売上高は、**Renvela®** 錠のオーソライズド・ジェネリック医薬品について、2014 年 4 月以降、米国で限られた割り当て分のボトルを販売するライセンスを供与する **Impax** 社との合意の影響を反映し、22.0%減の 1 億 300 万ユーロとなりました。具体的な割り当て分は、米国における 2013 年度の **sevelamer** (一般名: セベラマー) 売上高全体の 10%程度に相当します。新興市場における **Renvela®/Renagel®** (レナジェル) の売上高は、22.2%増の 2,200 万ユーロとなりました。西欧諸国における売上高は、前年同期並みの 3,200 万ユーロでした。年初からの **Renvela®/Renagel®** (レナジェル) の売上高は、9.0%減の 4 億 7,100 万ユーロでした。

日本でのジェネリック医薬品との競合を反映し、第3四半期における処方薬の **Allegra®** (アレグラ) の売上高は 52.1%減 (カテゴリー変更を除外すると 19.0%減) の 3,200 万ユーロ、**Ambien®** 製品群の売上高は 16.0%減の 7,800 万ユーロとなりました。年初からの **Allegra®** (アレグラ) の売上高は 1 億 5,100 万ユーロ、**Ambien®** 製品群の売上高は、2 億 2,900 万ユーロでした。

ジェネリック医薬品の侵食を主原因として、**Taxotere®** (タキソテール) の第3四半期の売上高は 28.6%減の 5,900 万ユーロ、年初からの売上高は 31.7%減の 1 億 9,500 万ユーロとなりました。**Eloxatin®** の第3四半期の売上高は 12.0%減の 4,300 万ユーロ、年初からの売上高は 14.2%減の 1 億 3,600 万ユーロとなりました。

## ジェネリック医薬品

第3四半期におけるジェネリック医薬品の売上高は、ブラジル (7,600 万ユーロ) での回復を反映し、8.3%増の 4 億 5,100 万ユーロとなりました。第3四半期におけるジェネリック医薬品の売上高は、西欧諸国では 3.9%減の 1 億 2,500 万ユーロ、米国では 24.3%減の 2,800 万ユーロとなりました。新興市場におけるジェネリック医薬品の売上高は、ブラジルでの回復に牽引され、19.8%増の 2 億 8,700 万ユーロとなりました。年初からのジェネリック医薬品の売上高は、23.2%増の 13 億 3,800 万ユーロとなりました。

## ワクチン

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 3 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)	2014 年度 年初から 9 カ月間 純売上高	前年同期比 (CER)
ポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型 (ヒブ)ワクチン (Pentacel <sup>®</sup> 、Pentaxim <sup>®</sup> 、および ImovaxPolio <sup>®</sup> (イモバックスポリオ)を含む)	259	+7.4%	754	-2.4%
インフルエンザワクチン (Vaxigrip <sup>®</sup> と Fluzone <sup>®</sup> を含む)	650	+15.0%	844	+16.0%
髄膜炎菌性髄膜炎・肺炎ワクチン (Menactra <sup>®</sup> (メナクトラ)を含む)	191	-10.0%	362	-10.4%
成人用ブースター(追加接種)ワクチン (Adacel <sup>®</sup> を含む)	131	+54.8%	295	+3.1%
トラベラーズワクチンおよびその他風土病用 ワクチン	99	-3.0%	277	+5.9%
その他のワクチン	121	+21.8%	265	+14.2%
<b>ワクチン合計 (連結売上高)</b>	<b>1,451</b>	<b>+11.2%</b>	<b>2,797</b>	<b>+4.1%</b>

第 3 四半期におけるサノフィパスツールの連結売上高は、米国と新興市場でインフルエンザワクチンが好業績を収め、米国で Pentacel<sup>®</sup>および Adacel<sup>®</sup>が引き続き緩やかに回復したことに牽引され、11.2%増の 14 億 5,100 万ユーロとなりました。年初からのサノフィパスツールの連結売上高は、4.1%増の 27 億 9,700 万ユーロでした。

第 3 四半期におけるインフルエンザワクチンの売上高は、米国と新興市場でのインフルエンザワクチンの好業績を受けて、15.0%増の 6 億 5,000 万ユーロとなりました。米国では、サノフィパスツールの製品差別化戦略により、高齢者向けの Fluzone<sup>®</sup> High-Dose (高用量)および 4 価(のウィルス株から成る)インフルエンザワクチン Fluzone<sup>®</sup> Quadrivalent が大きく伸長しました。年初からのインフルエンザワクチンの売上高は、16.0%増の 8 億 4,400 万ユーロとなりました。

第 3 四半期におけるポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチンの売上高は、7.4%増の 2 億 5,900 万ユーロでした。米国におけるポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチンの売上高は、Pentacel<sup>®</sup>が引き続き緩やかに回復したことに牽引され、94.0%増の 9,700 万ユーロとなりました。新興市場におけるポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチンの売上高は、アジアでの Pentaxim<sup>®</sup>およびポリオワクチンの売上高減少を反映し、20.6%減の 1 億 2,000 万ユーロとなりました。年初からのポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチンの売上高は、2.4%減の 7 億 5,400 万ユーロでした。

第 3 四半期における Menactra<sup>®</sup>(メナクトラ)の売上高は、10.3%減の 1 億 7,400 万ユーロでした。米国では、高い市場シェアを維持しながらも、公的機関からの段階的な受注を反映し、Menactra<sup>®</sup>(メナクトラ)の売上高が減少しました。年初からの Menactra<sup>®</sup>(メナクトラ)の売上高は、6.9%減の 3 億 2,700 万ユーロでした。

トラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチンの第 3 四半期の売上高は 3.0%減の 9,900 万ユーロ、年初からの売上高は 5.9%増の 2 億 7,700 万ユーロでした。

第 3 四半期における成人用ブースターワクチンの売上高は、供給が改善し、Adacel<sup>®</sup>の売上高が段階的に回復したことを反映し、54.8%増の 1 億 3,100 万ユーロとなりました。年初からの成人用ブースターワクチンの売上高は、3.1%増の 2 億 9,500 万ユーロでした。

第 3 四半期に、欧州におけるメルク社とのジョイントベンチャーであるサノフィパスツール MSD(サノフィパスツールに非連結)は、前年同期並の 2 億 9,500 万ユーロの売上高を計上しました。Gardasil<sup>®</sup>の売上高減少によって、Zostavax<sup>®</sup>の売上高増加が相殺されました。年初からのサノフィパスツール MSD の売上高は、前年同期比(調整前)3.4%減の 6 億 800 万ユーロとなりました。

## 動物用医薬品

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 3 四半期 純売上高	前年同期比 (CER)	2014 年度 年初から 9 カ月間 純売上高	前年同期比 (CER)
コンパニオンアニマル	317	+13.3%	1,006	+5.9%

産業動物	198	+11.7%	563	+4.2%
動物用医薬品合計	515	+12.7%	1,569	+5.3%
－フィプロニル製品	143	-5.3%	483	-3.3%
－NexGard™ (ネクスガード)	27	-	85	-
－アベルメクチン製品	101	+11.1%	313	-3.3%
－ワクチン	176	+11.3%	510	+1.7%

第3四半期における動物用医薬品の売上高は、NexGard™ (ネクスガード)の発売および産業動物領域の好調に牽引され12.7%増の5億1,500万ユーロとなりました。米国での動物用医薬品の売上高は、23.2%増の2億2,000万ユーロでした。年初からの動物用医薬品の売上高は、5.3%増の15億6,900万ユーロとなりました。

第3四半期におけるコンパニオンアニマル・セグメントの売上高は、NexGard™ (ネクスガード)の発売とペット用ワクチンおよびHeartgard® (カルドメック)の業績を反映し、13.3%増の3億1,700万ユーロとなりました。メリアルは、新世代のノミ・マダニ駆除薬である犬用NexGard™ (ネクスガード)を第1四半期に米国で発売し、年初から9カ月間に欧州の数カ国で発売しました。第3四半期におけるNexGard™ (ネクスガード)の売上高は、2,700万ユーロであり、そのうち2,300万ユーロが米国で計上されました。米国におけるコンパニオンアニマル・セグメントの売上高は、19.5%増の1億8,500万ユーロでした。年初からのコンパニオンアニマル・セグメントの売上高は、5.9%増の10億600万ユーロでした。

第3四半期における産業動物セグメントの売上高は、反芻動物および豚用製品の2桁成長に牽引され、11.7%増の1億9,800万ユーロとなりました。さらに、獣医公衆衛生製品の入札が有利に進行したことにより、プラスの影響を受けました。年初からの産業動物セグメントの売上高は、4.2%増の5億6,300万ユーロでした。

## 地域別純売上高

(単位:100万ユーロ)	2014年度 第3四半期 純売上高	前年同期比 (CER)	2014年度 年初から9カ月間 純売上高	前年同期比 (CER)
新興市場 <sup>(a)</sup>	2,776	+7.6%	8,221	+9.9%
－中南米	811	+8.0%	2,429	+23.7%
－アジア	814	+9.6%	2,333	+6.8%
－東欧、ロシア、およびトルコ	629	+4.8%	1,868	+4.7%
－アフリカ	257	+13.9%	743	+2.5%
－中東	236	+3.5%	756	+1.7%
米国	3,208	+7.2%	8,192	+8.0%
西欧諸国 <sup>(b)</sup>	2,003	+3.1%	5,909	+0.0%
その他 <sup>(c)</sup>	794	-5.4%	2,376	-6.8%
－日本	507	-7.2%	1,569	-7.4%
合計	8,781	+5.1%	24,698	+5.0%

(a) 米国、カナダ、西欧諸国、日本、オーストラリア、ニュージーランドを除く各国

(b) フランス、ドイツ、英国、イタリア、スペイン、ギリシャ、キプロス、マルタ、ベルギー、ルクセンブルク、ポルトガル、オランダ、オーストリア、スイス、スウェーデン、アイルランド、フィンランド、ノルウェー、アイスランド、デンマーク

(c) 日本、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド

第3四半期における新興市場の売上高は、7.6%増の27億7,600万ユーロとなりました。医薬品事業の売上高は、糖尿病(17.5%増)、ジェンザイム(19.8%増)、ジェネリック医薬品(19.8%増)に牽引され、9.2%増となりました。中国の売上高は、医薬品事業の好業績(20.1%増)がワクチン(特にPentaxim®の売上高減少)によって部分的に相殺され、10.5%増の3億8,600万ユーロとなりました。中国における医薬品事業の売上高は、Plavix® (プラビックス)、Lantus® (ランタス)、およびAprovel®に牽引され、増加しました。東欧、ロシアおよびトルコの売上高は、トルコおよびハンガリーの好業績に支えられ、4.8%増となりました。ロシアの売上高は、4.3%増の1億9,500万ユーロでした。中東での売上高は、3.5%増の2億3,600万ユーロでした。ブラジルの売上高は、ジェネリック医薬品の業績に維持され、17.5%増の3億1,800万ユーロとなりました。年初からの新興市場の売上高は、9.9%増の82億2,100万ユーロとなりました。ブラジルのジェネリック医薬品を除くと、新興市場の売上高は6.1%増でした。



第 3 四半期における米国の売上高は、ジェンザイム(28.2%増)、ワクチン(15.8%増)、動物用医薬品(23.2%増)の好業績を受けて 7.2%増の 32 億 800 万ユーロとなりました。年初からの米国の売上高は、8.0%増の 81 億 9,200 万ユーロでした。

西欧諸国は、第 3 四半期に成長を回復し、売上高は 3.1%増の 20 億 300 万ユーロとなりました。Aprovel<sup>®</sup>のジェネリック医薬品との競合の影響によって、ジェンザイムの好業績(25.0%増)が相殺されました。年初からの西欧諸国の売上高は、前年同期並みの 59 億 900 万ユーロでした。

第 3 四半期における日本の売上高は、Plavix<sup>®</sup>(プラビックス)とワクチンの業績によって、Allegra<sup>®</sup>(アレグラ)、Myslee<sup>®</sup>(マイスリー)、Amaryl<sup>®</sup>(アマリアル)、および Taxotere<sup>®</sup>(タキソテール)のジェネリック医薬品の影響が一部相殺されたことを反映し、7.2%減の 5 億 700 万ユーロとなりました。年初からの日本の売上高は、7.4%減の 15 億 6,900 万ユーロでした。

## 研究開発の最新情報

サノフィの研究開発パイプラインの全容については、付録 6 をご参照ください。

### 薬事関連の最新情報

2014 年 7 月 31 日の 2014 年度第 2 四半期業績発表以降、以下の薬事関連の出来事がありました。

- 8 月、FDA は、特定のゴーシェ病 1 型成人患者に対する唯一のファーストライン経口治療薬である **Cerdelga<sup>™</sup>** (一般名: eliglustat) カプセルを承認しました。
- 同じく 8 月、**Lumizyme<sup>®</sup>** の追加適応および 4,000L 生産プロセスに関する sBLA が FDA の承認を取得しました。Lumizyme<sup>®</sup> は現在、年齢および表現型に関わらず、すべてのポンペ病患者に対する適応を取得しています。
- 9 月、小児用 **6 種混合ワクチン PR5i** (ジフテリア・破傷風・百日咳、B 型肝炎、ポリオ、ヒブ) の生物学的製剤承認申請 (BLA) を米国で提出しました。
- 7 月末、サノフィと Regeneron 社は、両社が **alirocumab** の BLA に関連し、FDA の希少小児疾患の優先審査証明書を使用する意向であることを発表しました。優先審査証明書は、BLA を優先審査に指定する権利をその所有者に与えます。優先審査とは、通常は申請から 10 カ月かかる審査を 6 カ月に迅速化するものです。サノフィと Regeneron 社は、年末までに米国および EU で **alirocumab** の薬事申請を行う予定です。

2014 年 10 月末時点の研究開発パイプラインは、臨床開発段階にあるワクチンの候補を含む 46 のプロジェクト(ライフサイクルマネジメントを除く)から構成され、そのうち 14 は第 III 相あるいは規制当局に承認申請中の段階にあります。

### ポートフォリオの最新情報

#### 第 III 相:

- 10 月、**dupilumab** (Regeneron 社と共同開発中の IL-4 および IL-13 のシグナルを阻害するモノクローナル抗体) がアトピー性皮膚炎の局所外用薬でコントロール不十分な中等度から重度までのアトピー性皮膚炎の成人患者を対象とする第 III 相に入りました。
- 10 月、サノフィパスツールは、インドのハイデラバードにある関連会社の **Shantha Biotechnics** 社が開発・製造した **ロタウイルスワクチン** の第 III 相臨床試験をインドで開始したことを発表しました。
- 9 月、多発性硬化症に対する **Lemtrada<sup>™</sup>** (一般名: アレムツズマブ) の延長試験 2 年目からの肯定的な中間結果を発表しました。この解析では、以前に第 III 相 CARE-MS I 試験または CARE-MS II 試験のいずれかで Lemtrada<sup>™</sup> の投与を受けていた患者において、再発率と障害の程度が低い状態で維持されていました。これらのピボタル試験では、Lemtrada<sup>™</sup> は、2 年間で試験開始時および 12 カ月後の時点で投与されました。ピボタル試験で Lemtrada<sup>™</sup> の投与を受けた患者の約 70% は、延長試験の 2 年目 (ピボタル試験の開始時から 4 年目に相当) に至っても追加で Lemtrada<sup>™</sup> の投与を受けませんでした。新たな安全性シグナルは特定されませんでした。
- 9 月、サノフィパスツールは、中南米での **デング熱ワクチン候補** に関する最終の画期的な第 III 相有効性試験が主要臨床評価項目を達成したことを発表しました。この結果から、3 回の投与スケジュールの後、9~16 歳までの小

児および若年者において、デング熱の症例が全体として有意に **60.8%\***減少することが明らかになりました。重要な点として、デング熱の **4 種類**の血清型それぞれに対して有効性が認められました。試験結果の追加観察からは、デング熱による入院リスクに臨床的に重要な **80.3%**の減少が認められました。また、この結果から、被験者において、デング熱の重症例であるデング出血熱に対する有効性も明らかになりました。これは、アジアにおけるサノフィの第 III 相デング熱試験の結果と一致しています。最後に、この結果から、以前にデング熱に曝露された場合において、より良い防御が得られることが示唆されます。第 III 相試験の有効性および安全性データの完全な解析は、米国ニューオーリンズで **2014 年 11 月 2~6 日**に開催される米国熱帯医学会議 (ASTMH) で発表されます。

- **8 月**、PCSK9 をターゲットとする現在開発中のモノクローナル抗体である **alirocumab** (Regeneron 社と共同開発中) について、高コレステロール血症患者を対象とした **4 件**の第 III 相 **ODYSSEY 試験** (ODYSSEY LONG TERM 試験、ODYSSEY COMBO II 試験、FH I 試験、FH II 試験) の詳細な肯定的結果が **2014 年**欧州心臓病学会 (ESC) のホットラインセッションで発表されました。これら **4 試験**はいずれも主要評価項目を達成しました。**alirocumab** は、さまざまな患者タイプに対して、標準療法であるスタチン治療と併用した場合、**1 年間**にわたり、LDL コレステロールの有意かつ持続的な低下を示しました。さらに **ODYSSEY LONG TERM 試験** (心血管リスクが高いまたは非常に高い高コレステロール血症患者を対象とし、**2 週間**ごとに **alirocumab 150 mg** を投与した場合の長期的な安全性をプラセボと比較して評価することを目的とした試験) の事後安全性解析では、判定された主要心血管事象 (心臓死、心筋梗塞、脳卒中、および入院が必要な不安定狭心症) の発生率がプラセボ群よりも低くなりました (**alirocumab 群 1.4%**、**プラセボ群 3.0%**、**名目 p 値<0.01**)。これらの心血管イベントは、患者 **1 万 8,000 人**を対象として進行中の **ODYSSEY OUTCOMES 試験** (心血管ベネフィットを明らかにするために **alirocumab** を前向きに評価する試験) の主要評価項目を構成しています。

\* 95% CI 総合的な有効性[52.0%、68.0%]、セロタイプ別の有効性 (ST1 50.3%、ST2 42.3%、ST3 74.0%、ST4 77.7%)、95% CI 入院リスク低減[64.7%、89.5%]

- **8 月**、**Fluzone® High-Dose** (高用量) (インフルエンザワクチン) に関する多施設共同大規模有効性試験の肯定的な結果がニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディシン誌に掲載されました。この結果から、**Fluzone® High-Dose** (高用量) が、標準用量の **Fluzone®** ワクチンと比較して、**65 歳以上**の成人のインフルエンザ予防により有効であることが明らかになりました。**Fluzone® High-Dose** (高用量) ワクチンは、主要評価項目であるインフルエンザ予防効果が、標準用量の **Fluzone®** ワクチンよりも **24.2% 高い** (95% CI, **9.7-36.5**) ことが分かりました。

## 第 II 相:

- **9 月**、サノフィと Regeneron 社は、Regeneron 社と共同開発中の **IL-4** および **IL-13** のシグナルを阻害するモノクローナル抗体である **dupilumab** について、鼻ポリープを伴い、鼻腔内副腎皮質ホルモン剤で効果不十分な中等度から重度までの慢性副鼻腔炎患者を対象とした第 **Ila** 相概念実証 (proof of concept: POC) 試験がすべての主要および副次的評価項目を達成したことを発表しました。試験では、内視鏡で見た鼻ポリープスコアで評価した鼻ポリープのサイズ (試験の主要評価項目) が **dupilumab** によって統計的に有意に改善しました。安全性プロファイルは、過去の試験と一致していました。**dupilumab** の最も一般的な有害事象は、注射部位の反応、鼻咽頭炎、口腔咽頭痛、鼻血、頭痛、めまいでした。
- **Valetizumab** (抗 VLA2 モノクローナル抗体) が多発性硬化症における第 **Iib** 相試験に入りました。
- サノフィと Alopexx 社は、**SR279356** (抗 PNAG モノクローナル抗体) の開発に関し、Alopexx 社が主な責任を負うことで合意しました。その結果、両社は、**SAR279356** の開発に関するこの契約を終了することで合意しました。

## 第 I 相:

- サノフィと Regeneron 社は、現在、第 I 相段階にあるプロジェクト **SAR 438584** (REGN2222) が完全ヒト化抗 RSV F タンパク質モノクローナル抗体であり、乳幼児の呼吸器系死亡の主要原因である呼吸器多核体 (RS) ウイルス関連疾患の予防について評価を行っていることを公開しました。
- 期中に、抗 CEACAM5 ADC である **SAR408701** が固形腫瘍における第 I 相に入りました。

## 新規提携:

- **10 月**、サノフィパスツールおよび臨床段階の免疫療法を開発する Immune Design 社は、**単純ヘルペスウイルス (HSV)** の免疫療法の開発に関し、幅広い提携契約を締結したことを発表しました。

- 8月、サノフィと MannKind 社は、成人の 1 型および 2 型糖尿病患者さんを対象とした新しい吸入用速効型インスリン治療薬である Afrezza<sup>®</sup>の開発および販売に関し、世界的な独占的ライセンス契約を締結したことを発表しました。
- 9月、サノフィと遺伝的心疾患の精密治療薬開発をリードする MyoKardia 社(株式非公開)は、心筋疾患の最も一般的な形態である心筋症と呼ばれる遺伝的心疾患に対し、その種で初の標的療法薬を発見および開発する世界的な提携契約を発表しました。

## 2014 年度第 3 四半期および年初から 9 カ月間の業績

### 事業純利益<sup>(1)</sup>

第 3 四半期におけるサノフィの純売上高は、前年同期比(調整前)で 4.1%増(為替レート変動の影響を排除した場合は 5.1%増)の 87 億 8,100 万ユーロとなりました。年初からの売上高は、前年同期比(調整前)0.8%増(為替レート変動の影響を排除した場合は 5.0%増)の 246 億 9,800 万ユーロとなりました。

その他収益は、2013 年度第 1 四半期に米国で Enbrel<sup>®</sup>のロイヤリティが終了したことの影響を受け、第 3 四半期は 1.2%増の 8,700 万ユーロ、年初から 9 カ月間は 9.7%減の 2 億 4,100 万ユーロとなりました。

第 3 四半期における売上総利益は、6.3%増(為替レート変動の影響を排除した場合は 7.3%増)の 60 億 400 万ユーロでした。純売上高に対する売上原価の比率(CoS 率)は、前年同期と比較し 1.4 ポイント改善し 32.6%となりました。これは、トロントの生産問題が解決し、ジェンザイムの生産能力が向上して多発性硬化症の売上高が増加し、米国と中国で製品構成が有利となったことを反映したものです。年初からの売上総利益は、1.6%増(為替レート変動の影響を排除した場合は 6.1%増)の 169 億 5,100 万ユーロに達しました。年初から 9 カ月間の純売上高に占める売上原価の比率は、前年同期と比較し 0.6 ポイント改善の 32.4%となりました。

第 3 四半期における研究開発費は、3.0%減の 11 億 4,600 万ユーロとなりました。オンコロジーへの支出減少と Toujeo<sup>®</sup>の EDITION プログラムの完了によって、dupilumab への支出増加が十分に相殺されたことを反映し、為替レート変動の影響を排除した場合、研究開発費は 2.6%減となりました。年初からの研究開発費は、1.4%減(為替レート変動の影響を排除した場合は 0.6%増)の 34 億 7,300 万ユーロ、純売上高に占める研究開発費の割合は、前年同期比 0.3 ポイント減の 14.1%となりました。

第 3 四半期における販売費および一般管理費は、9.0%増の 21 億 9,300 万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合、販売費および一般管理費は、中国における商業活動の回復、米国での NexGard<sup>™</sup>(ネクスガード)および Frontline<sup>®</sup>(フロントライン)に関する広告・販促費の増加、ジェンザイムの多発性硬化症および希少疾患領域における発売のための投資を反映し、10.0%増となりました。純売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、前年同期比で 1.1 ポイント増加し、25.0%となりました。年初からの販売費および一般管理費は、1.1%増(為替レート変動の影響を排除した場合は 4.9%増)の 65 億 2,600 万ユーロとなりました。年初から 9 カ月間における純売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、前年同期並みの 26.4%でした。

第 3 四半期におけるその他の当期営業収益(費用控除後)は、前年同期の 2,800 万ユーロに対し、3,900 万ユーロとなりました。今期のデータには、米国製品のライセンス終了に関連した 4,000 万ユーロの利益が含まれています。

第 3 四半期における関連会社持分利益は、前年同期の 3,800 万ユーロに対し、4,300 万ユーロとなりました。このデータには、4 月以降の持分法に基づき計上された Regeneron 社の利益に占める当社の持分、および欧州におけるメルク社とのワクチン関連ジョイントベンチャーであるサノフィパスツール MSD の利益に占める当社の持分が含まれています。

第 3 四半期における非支配株主に帰属する純利益は、前年同期の 3,600 万ユーロの損失に対し、3,100 万ユーロの損失となりました。

第 3 四半期における事業営業利益は、9.3%増の 27 億 1,600 万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合、事業営業利益は 11.0%増でした。純売上高に占める事業営業利益の割合は、1.4 ポイント増加し、30.9%となりました。

<sup>(1)</sup> 財務指標の定義については付録 8、事業純利益から当社株主に帰属する連結純利益への調整については付録 3 を参照

年初からの事業営業利益は、2.6%増(為替レート変動の影響を排除した場合は8.6%増)の70億600万ユーロとなりました。年初からの純売上高に占める事業営業利益の割合は、前年同期の27.9%に対し、28.4%となりました。

第3四半期における純財務費用は、前年同期の1億2,300万ユーロに対し、1億3,900万ユーロでした。年初からの純財務費用は、前年同期の4億ユーロに対し、3億900万ユーロでした。

第3四半期および年初からの実効税率は、前年同期の24%に対し、25%でした。

第3四半期における事業純利益<sup>(1)</sup>は、7.8%増の19億3,500万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合は、9.4%増でした。第3四半期の純売上高に占める事業純利益の割合は、前年同期比0.7ポイント増の22.0%となりました。年初からの事業純利益は、3.0%増(為替レート変動の影響を排除した場合は9.3%増)の50億1,900万ユーロとなりました。年初から9カ月間の純売上高に占める事業純利益の割合は、前年同期比0.4ポイント増の20.3%となりました。

2014年度第3四半期の1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>(EPS)は、調整前では8.1%増、為替レート変動の影響を排除した場合は10.3%増の1.47ユーロとなりました。2014年度第3四半期の期中平均発行済み株式数は、前年同期の13億2,350万株に対し、13億1,300万株となりました。2014年度年初から9カ月間の1株当たり事業純利益<sup>(1)</sup>は、調整前では3.5%増、為替レート変動の影響を排除した場合は10.1%増の3.81ユーロとなりました。2014年度年初から9カ月間の期中平均発行済み株式数は、前年同期の13億2,380万株に対し、13億1,580万株となりました。

### 事業純利益から連結純利益への調整(付録3を参照)

2014年度年初から9カ月間の事業純利益と当社株主に帰属する連結純利益間の主な調整項目は、以下のとおりです。

- 買収企業の無形固定資産の公正価値での再評価(主にアベンティスの6億8,900万ユーロ、ジェンザイムの6億800万ユーロ、メリアル<sup>2</sup>の2億9,400万ユーロ)および取得した無形固定資産(ライセンス・製品:6,400万ユーロ)に関連した償却費は、18億6,200万ユーロでした。2014年度第3四半期には、買収企業の無形固定資産の公正価値での再評価(主にアベンティスの1億8,200万ユーロ、ジェンザイムの1億8,800万ユーロ、メリアル<sup>2</sup>の1億ユーロ)および取得した無形固定資産(ライセンス・製品:2,100万ユーロ)に関連した償却費、5億6,100万ユーロを計上しました。これらの項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- 無形固定資産に対する減損損失、1億900万ユーロ(このうち2014年度第3四半期の3,500万ユーロは、主にSAR 279356に関連するものです)。この項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- CVRに関連した偶発対価の公正価値の上昇(2,100万ユーロ。このうち700万ユーロが2014年度第3四半期に計上)およびLemtrada<sup>TM</sup>に関連したバイエル社の偶発対価の公正価値の上昇(1億5,500万ユーロ。このうち5,100万ユーロが2014年度第3四半期に計上)を反映した1億7,700万ユーロの費用。
- 2億9,800万ユーロの事業再編費用(主にフランスでの再編に関連する第3四半期の1億6,300万ユーロを含む)。
- Alnylam社株式の評価益、3,500万ユーロ。この項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- 2014年7月に公布された最終IRS規則により、債務の認識時期が変更され、2014年度に1回限りの「二重」経費が生じることを受けて、2013年の米国での売上高に関連して生じる1億1,600万ユーロの年間経費。
- 上記項目から生じた7億8,300万ユーロの税効果(無形固定資産に対する償却費から生じた6億3,900万ユーロ、事業再編費用に関連した9,900万ユーロ、および無形固定資産の減損損失に関連した3,900万ユーロから構成される)。第3四半期の税効果は2億6,100万ユーロでした(無形固定資産に対する償却費から生じた1億8,800万ユーロの繰延税金、事業再編費用に関連した5,500万ユーロ、および無形固定資産に対する減損損失に関連した1,300万ユーロを含む)(付録3を参照)。
- サノフィ株主に支払った配当に対する1億1,000万ユーロの税金

<sup>(1)</sup>財務指標の定義については付録8、事業純利益から当社株主に帰属する連結純利益への調整については付録3を参照

- 「関連会社持分利益」に含まれる、関連会社買収の一部としての資産および負債の公正価値での再評価、ならびにジョイントベンチャーの無形固定資産の償却に関連した 1 億 1,800 万ユーロの費用 (税控除後) (このうち 8,600 万ユーロが 2014 年度第 3 四半期に計上)。この項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。

## 資本配分

8 億 200 万ユーロの資本支出と 5 億 7,700 万ユーロの運転資本の増加を考慮し、事業再編費用を除いた 2014 年度年初から 9 カ月間における営業活動からの純キャッシュは、15.8%増の 42 億 3,900 万ユーロとなりました。この純キャッシュフローは、新株発行による収益 (6 億 3,500 万ユーロ) によって部分的に相殺された株式の買い戻し (11 億 200 万ユーロ)、サノフィが支払った配当 (36 億 7,600 万ユーロ)、買収・提携 (売却を控除) (Regeneron 社に関連した 14 億 9,200 万ユーロと Alynlam 社に関連した 5 億 3,500 万ユーロを含む 22 億 2,000 万ユーロ)、および事業再編費用 (6 億 300 万ユーロ) のための財源に充当しました。

その結果、純負債は、2013 年 12 月 31 日時点の 60 億 4,300 万ユーロから 2014 年 9 月 30 日時点の 92 億 2,800 万ユーロ (65 億 2,600 万ユーロの現金および現金同等物を控除) へと増加しました。

## 付録

### 付録一覧

- 付録 1: 2014 年度第 3 四半期および年初から 9 カ月間の地域別・製品別連結純売上高
- 付録 2: 2014 年度第 3 四半期および年初から 9 カ月間の事業純利益計算書
- 付録 3: 事業純利益から当社株主に帰属する純利益への調整
- 付録 4: 2014 年度第 3 四半期および年初から 9 カ月間の連結損益計算書
- 付録 5: 2014 年の為替感度
- 付録 6: 研究開発パイプライン
- 付録 7: 2014 年度下半期/2015 年度年初から 9 カ月間に見込まれる研究開発マイルストーン
- 付録 8: 定義

付録 1:2014 年度第 3 四半期および年初から 9 カ月間の地域別・製品別連結純売上高

2014 年度第 3 四半期純売上高 (単位:100 万ユーロ)	合計	前年度比 (CER)	前年度比 (調整前)	西欧諸国	前年度比 (CER)	米国	前年度比 (CER)	新興市場	前年度比 (CER)	その他	前年度比 (CER)
Lantus(ランタス)	1,567	8.1%	7.6%	222	9.5%	1,042	5.8%	232	19.7%	71	4.2%
Apidra(アピドラ)	88	21.9%	20.5%	26	19.0%	35	20.7%	19	25.0%	8	28.6%
Amaryl(アマリール)	87	-2.2%	-4.4%	5	0.0%	2	-	68	6.2%	12	-38.1%
Insuman	34	0.0%	0.0%	21	-4.5%	0	-	13	8.3%	0	-
Lyxumia(リクスミア)	8	166.7%	166.7%	4	100.0%	0	-	2	-	2	100.0%
<b>糖尿病</b>	<b>1,799</b>	<b>8.3%</b>	<b>7.7%</b>	<b>292</b>	<b>10.3%</b>	<b>1,079</b>	<b>6.4%</b>	<b>336</b>	<b>17.5%</b>	<b>92</b>	<b>-3.9%</b>
Taxotere(タキソテール)	59	-28.6%	-29.8%	3	-40.0%	2	-33.3%	35	-23.9%	19	-33.3%
Jevtana(*) (ジェブタナ)	67	15.3%	13.6%	34	22.2%	23	9.5%	8	12.5%	2	0.0%
Eloxatine	43	-12.0%	-14.0%	2	0.0%	-4	-500.0%	31	-3.1%	14	0.0%
Thymoglobulin(サイモグロブリン)	54	3.8%	3.8%	8	0.0%	28	7.7%	14	-12.5%	4	100.0%
Mozobil(*)	29	20.0%	16.0%	10	12.5%	17	21.4%	2	0.0%	0	-
Zaltrap(*)	18	30.8%	38.5%	9	100.0%	6	-25.0%	2	-	1	-
その他のオンコロジー製品	61	-6.3%	-4.7%	14	7.7%	34	-12.2%	8	-14.3%	5	33.3%
<b>オンコロジー</b>	<b>331</b>	<b>-4.0%</b>	<b>-4.6%</b>	<b>80</b>	<b>16.2%</b>	<b>106</b>	<b>-5.3%</b>	<b>100</b>	<b>-10.7%</b>	<b>45</b>	<b>-13.2%</b>
Aubagio	112	156.8%	154.5%	18	-	87	97.7%	3	300.0%	4	-500.0%
Lemtrada	7	-	-	6	-	0	-	1	-	0	-
Cerezyme(セレザイム)	175	9.1%	6.1%	60	15.4%	48	4.3%	56	7.0%	11	10.0%
Myozyme(マイオザイム)	138	9.4%	8.7%	69	1.5%	35	9.4%	25	42.1%	9	0.0%
Fabrazyme(ファブプラザイム)	116	21.9%	20.8%	28	40.0%	58	14.0%	15	33.3%	15	14.3%
Aldurazyme(アウドラザイム)	41	7.9%	7.9%	16	14.3%	8	28.6%	12	0.0%	5	-20.0%
その他の希少疾患製品	60	3.4%	1.7%	10	-10.0%	23	0.0%	12	20.0%	15	6.3%
<b>ジェンザイム</b>	<b>649</b>	<b>24.6%</b>	<b>22.7%</b>	<b>207</b>	<b>25.0%</b>	<b>259</b>	<b>28.2%</b>	<b>124</b>	<b>19.8%</b>	<b>59</b>	<b>19.2%</b>
Plavix(プラビックス)	450	9.0%	6.4%	52	-17.5%	0	-	203	21.3%	195	6.8%
Lovenox	426	7.2%	6.2%	221	5.8%	34	-12.8%	147	16.9%	24	0.0%
Aprovel	178	-14.8%	-15.2%	41	-47.4%	4	0.0%	105	9.3%	28	-9.7%
Renagel(レナジェル) および Renvela	162	-13.4%	-13.4%	32	0.0%	103	-22.0%	22	22.2%	5	0.0%
Allegra(アレグラ)	32	-52.1%	-54.9%	2	0.0%	0	-100.0%	1	-96.7%	29	-24.4%
Stilnox(マイスリー)	78	-16.0%	-17.0%	10	-9.1%	19	-5.0%	16	0.0%	33	-27.7%
Depakine	100	-1.0%	-2.0%	36	0.0%	0	-	61	0.0%	3	-25.0%
Synvisc(サイビスク) / Synvisc One	88	-2.2%	-2.2%	6	0.0%	69	-4.2%	11	10.0%	2	0.0%
Tritace	69	-5.3%	-8.0%	31	-8.8%	0	-	38	0.0%	0	-33.3%
Multaq(*)	76	13.4%	13.4%	11	10.0%	62	17.0%	3	0.0%	0	-50.0%
Lasix(ランックス)	42	2.3%	-2.3%	19	0.0%	1	0.0%	13	18.2%	9	-8.3%
Targocid(タゴシッド)	40	8.1%	8.1%	20	17.6%	0	-	17	5.9%	3	-33.3%
Orudis	33	-8.3%	-8.3%	4	0.0%	0	-	28	-12.9%	1	-
Cordarone(アンカロン)	31	-3.0%	-6.1%	6	0.0%	0	-	17	6.3%	8	-18.2%
Xatral	22	-15.4%	-15.4%	9	-10.0%	0	-100.0%	13	-14.3%	0	0.0%
Actonel	21	-8.7%	-8.7%	4	-33.3%	0	-	11	0.0%	6	0.0%
Auvi-Q / Allerject(*)	37	26.7%	23.3%	1	-	33	22.2%	0	-	3	33.3%
その他の処方薬	881	-12.1%	-13.1%	382	-3.3%	75	-37.8%	324	-12.1%	100	-16.1%
<b>その他の処方薬計</b>	<b>2,766</b>	<b>-5.4%</b>	<b>-6.6%</b>	<b>887</b>	<b>-5.4%</b>	<b>400</b>	<b>-14.4%</b>	<b>1,030</b>	<b>-0.6%</b>	<b>449</b>	<b>-7.2%</b>
<b>コンシューマー・ヘルスケア</b>	<b>819</b>	<b>12.9%</b>	<b>10.4%</b>	<b>157</b>	<b>0.0%</b>	<b>158</b>	<b>3.3%</b>	<b>452</b>	<b>26.2%</b>	<b>52</b>	<b>-11.9%</b>
<b>ジェネリック医薬品</b>	<b>451</b>	<b>8.3%</b>	<b>6.4%</b>	<b>125</b>	<b>-3.9%</b>	<b>28</b>	<b>-24.3%</b>	<b>287</b>	<b>19.8%</b>	<b>11</b>	<b>0.0%</b>
<b>医薬品</b>	<b>6,815</b>	<b>3.4%</b>	<b>2.1%</b>	<b>1,748</b>	<b>1.3%</b>	<b>2,030</b>	<b>2.3%</b>	<b>2,329</b>	<b>9.2%</b>	<b>708</b>	<b>-5.7%</b>
ボリオ・百日咳ワクチン	259	7.4%	6.1%	8	0.0%	97	94.0%	120	-20.6%	34	9.7%
インフルエンザワクチン	650	15.0%	16.3%	89	15.6%	456	11.7%	99	31.6%	6	25.0%
髄膜炎菌性髄膜炎・肺炎ワクチン	191	-10.0%	-9.5%	2	100.0%	168	-6.1%	19	-34.5%	2	-50.0%
成人用ブースター(追加接種)ワクチン	131	54.8%	56.0%	28	107.7%	90	58.9%	11	-8.3%	2	0.0%
トラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチン	99	-3.0%	-2.0%	6	50.0%	31	-18.4%	50	6.3%	12	-9.1%
その他のワクチン	121	21.8%	19.8%	0	-50.0%	116	21.3%	5	300.0%	0	0.0%
<b>ワクチン</b>	<b>1,451</b>	<b>11.2%</b>	<b>11.6%</b>	<b>133</b>	<b>26.7%</b>	<b>958</b>	<b>15.8%</b>	<b>304</b>	<b>-4.0%</b>	<b>56</b>	<b>3.6%</b>
フィプロニル製品	143	-5.3%	-5.3%	39	-4.9%	67	-9.6%	28	16.0%	9	-25.0%
Nexgard(ネクスガード)	27	-	-	3	-	23	-	1	-	0	-
ワクチン	176	11.3%	10.0%	47	23.7%	40	11.1%	84	6.1%	5	0.0%
アベルメクタン製品	101	11.1%	12.2%	11	0.0%	61	27.1%	14	7.1%	15	-25.0%
その他	68	21.1%	19.3%	22	-5.0%	29	45.0%	16	15.4%	1	50.0%
<b>動物用医薬品</b>	<b>515</b>	<b>12.7%</b>	<b>12.4%</b>	<b>122</b>	<b>8.1%</b>	<b>220</b>	<b>23.2%</b>	<b>143</b>	<b>9.7%</b>	<b>30</b>	<b>-13.9%</b>
<b>グループ合計</b>	<b>8,781</b>	<b>5.1%</b>	<b>4.1%</b>	<b>2,003</b>	<b>3.1%</b>	<b>3,208</b>	<b>7.2%</b>	<b>2,776</b>	<b>7.6%</b>	<b>794</b>	<b>-5.4%</b>

年初から9カ月間の純売上高 (単位:100万ユーロ)	合計	前年度比 (CER)	前年度比 (調整前)	西欧諸国	前年度比 (CER)	米国	前年度比 (CER)	新興市場	前年度比 (CER)	その他	前年度比 (CER)
Lantus (ランタス)	4,572	12.5%	8.8%	643	6.5%	3,028	13.3%	700	17.8%	201	4.2%
Apidra (アピドラ)	240	20.3%	15.9%	73	18.0%	90	17.9%	54	28.3%	23	18.2%
Amaryl (アマリール)	269	0.7%	-5.3%	15	-11.8%	3	200.0%	210	9.9%	41	-28.6%
Insuman	99	3.0%	0.0%	61	-9.0%	1	0.0%	37	29.0%	0	-
Lyxumia (リクスミア)	19	375.0%	375.0%	11	266.7%	0	-	3	-	5	400.0%
<b>糖尿病</b>	<b>5,249</b>	<b>12.5%</b>	<b>8.6%</b>	<b>846</b>	<b>7.7%</b>	<b>3,122</b>	<b>13.5%</b>	<b>1,007</b>	<b>17.5%</b>	<b>274</b>	<b>1.0%</b>
Taxotere (タキソテール)	195	-31.7%	-36.3%	11	-42.1%	7	-78.8%	110	-25.0%	67	-24.5%
Jevtana (*) (ジェブタナ)	199	23.6%	20.6%	106	38.2%	65	6.3%	25	27.3%	3	0.0%
Eloxatine	136	-14.2%	-19.5%	4	-20.0%	-3	-118.8%	90	-3.1%	45	-2.0%
Thymoglobulin (サイモグロブリン)	160	11.5%	8.1%	24	4.3%	78	5.3%	49	27.5%	9	11.1%
Mozobil (*)	80	7.9%	5.3%	26	4.2%	44	7.1%	8	12.5%	2	50.0%
Zaltrap (*)	49	28.9%	28.9%	25	177.8%	20	-28.6%	4	300.0%	0	-
その他のオンコロジー製品	192	3.7%	1.6%	43	4.9%	112	3.5%	23	4.5%	14	0.0%
<b>オンコロジー</b>	<b>1,011</b>	<b>-3.8%</b>	<b>-7.3%</b>	<b>239</b>	<b>20.3%</b>	<b>323</b>	<b>-10.2%</b>	<b>309</b>	<b>-5.8%</b>	<b>140</b>	<b>-13.0%</b>
Aubagio	287	205.2%	195.9%	56	-	218	130.9%	6	700.0%	7	-900.0%
Lemtrada	18	-	-	16	-	0	-	1	-	1	-
Cerezyme (セラゼイム)	518	8.3%	2.2%	179	8.5%	138	6.0%	171	12.1%	30	-2.9%
Myozyme (マイオザイム)	392	9.2%	6.2%	199	-2.5%	99	10.9%	71	47.2%	23	19.0%
Fabrazyme (ファブラザイム)	337	26.2%	20.8%	81	32.8%	164	14.3%	51	58.3%	41	31.4%
Aldurazyme (アウドラザイム)	127	13.8%	9.5%	48	6.8%	24	19.0%	43	20.5%	12	8.3%
その他の希少疾患製品	179	3.4%	0.0%	31	3.3%	63	-11.0%	37	39.3%	48	4.2%
<b>ジェンザイム</b>	<b>1,858</b>	<b>25.1%</b>	<b>20.1%</b>	<b>610</b>	<b>20.9%</b>	<b>706</b>	<b>28.7%</b>	<b>380</b>	<b>28.4%</b>	<b>162</b>	<b>18.8%</b>
Plavix (プラビックス)	1,362	5.8%	-0.3%	168	-14.7%	1	-80.0%	629	10.4%	564	8.8%
Lovenox	1,263	2.9%	-0.2%	672	5.3%	95	-27.9%	430	10.0%	66	-1.4%
Aprovel	550	-17.9%	-20.2%	147	-45.8%	13	30.0%	306	3.9%	84	-14.0%
Renagel (レナジェル) および Renvela	471	-9.0%	-11.6%	97	-3.0%	305	-14.7%	55	20.0%	14	-6.7%
Allegra (アレグラ)	151	-47.6%	-52.7%	8	0.0%	0	-100.0%	4	-95.6%	139	-30.5%
Stilnox (マイスリー)	229	-15.3%	-20.2%	31	-3.1%	53	-8.5%	48	0.0%	97	-26.0%
Depakine	291	-2.6%	-6.4%	103	0.0%	0	-	178	-3.5%	10	-9.1%
Synvisc (サイビスク) / Synvisc One	251	-4.8%	-7.7%	20	11.1%	196	-7.4%	28	20.0%	7	-33.3%
Tritace	212	-5.6%	-9.0%	96	-6.8%	0	-	112	-2.5%	4	-37.5%
Multaq (*)	215	11.1%	8.6%	33	6.5%	174	12.6%	7	16.7%	1	-50.0%
Lasix (ラシックス)	123	3.2%	-2.4%	59	5.4%	2	0.0%	38	16.7%	24	-15.6%
Targocid (タゴシッド)	115	-5.6%	-8.0%	61	0.0%	0	-	48	-7.1%	6	-33.3%
Orudis	116	14.7%	6.4%	14	-16.7%	0	-	99	20.2%	3	50.0%
Cordarone (アンカロン)	96	-1.9%	-8.6%	18	-5.3%	0	-	53	3.6%	25	-9.7%
Xatral	69	-7.8%	-10.4%	28	-3.4%	0	-100.0%	40	-2.3%	1	-50.0%
Actonel	62	-12.0%	-17.3%	13	-23.5%	0	-	32	-5.6%	17	-13.6%
Auvi-Q / Allerject (*)	63	32.7%	28.6%	2	0.0%	54	31.0%	0	-	7	60.0%
その他の処方薬	2,717	-10.5%	-13.9%	1,156	-5.9%	272	-25.1%	1,015	-9.0%	274	-16.6%
<b>その他の処方薬計</b>	<b>8,356</b>	<b>-6.3%</b>	<b>-10.1%</b>	<b>2,726</b>	<b>-7.0%</b>	<b>1,165</b>	<b>-12.8%</b>	<b>3,122</b>	<b>-1.6%</b>	<b>1,343</b>	<b>-9.3%</b>
<b>コンシューマー・ヘルスケア</b>	<b>2,520</b>	<b>17.3%</b>	<b>10.4%</b>	<b>518</b>	<b>0.0%</b>	<b>536</b>	<b>15.0%</b>	<b>1,321</b>	<b>32.4%</b>	<b>145</b>	<b>-16.8%</b>
<b>ジェネリック医薬品</b>	<b>1,338</b>	<b>23.2%</b>	<b>16.7%</b>	<b>400</b>	<b>-3.2%</b>	<b>94</b>	<b>-32.6%</b>	<b>815</b>	<b>56.4%</b>	<b>29</b>	<b>22.2%</b>
<b>医薬品</b>	<b>20,332</b>	<b>5.1%</b>	<b>0.7%</b>	<b>5,339</b>	<b>-0.2%</b>	<b>5,946</b>	<b>6.1%</b>	<b>6,954</b>	<b>12.9%</b>	<b>2,093</b>	<b>-6.8%</b>
ボリオ・百日咳ワクチン	754	-2.4%	-6.6%	20	-20.0%	263	56.1%	361	-19.1%	110	-15.5%
インフルエンザワクチン	844	16.0%	15.5%	90	15.4%	477	14.1%	259	20.2%	18	11.1%
髄膜炎菌性髄膜炎・肺炎ワクチン	362	-10.4%	-12.6%	2	-50.0%	299	1.3%	56	-42.9%	5	0.0%
成人用ブースター (追加接種) ワクチン	295	3.1%	0.7%	44	-15.4%	213	10.1%	30	-6.1%	8	-10.0%
トラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチン	277	5.9%	1.5%	19	58.3%	77	1.3%	144	4.1%	37	5.3%
その他のワクチン	265	14.2%	10.9%	1	-50.0%	248	14.0%	10	42.9%	6	12.5%
<b>ワクチン</b>	<b>2,797</b>	<b>4.1%</b>	<b>1.5%</b>	<b>176</b>	<b>1.7%</b>	<b>1,577</b>	<b>15.3%</b>	<b>860</b>	<b>-8.4%</b>	<b>184</b>	<b>-8.1%</b>
フィブロニル製品	483	-3.3%	-6.2%	151	-1.3%	231	-9.2%	74	12.5%	27	0.0%
Nexgard (ネクsgガード)	85	-	-	7	-	76	-	1	-	1	-
ワクチン	510	1.7%	-2.1%	135	4.7%	112	2.7%	250	-0.4%	13	7.7%
アベルメクテン製品	313	-3.3%	-6.6%	39	-2.5%	185	-3.0%	39	2.4%	50	-8.9%
その他	178	8.2%	4.7%	62	-1.6%	65	8.2%	43	27.8%	8	0.0%
<b>動物用医薬品</b>	<b>1,569</b>	<b>5.3%</b>	<b>1.8%</b>	<b>394</b>	<b>2.4%</b>	<b>669</b>	<b>8.9%</b>	<b>407</b>	<b>4.8%</b>	<b>99</b>	<b>-2.7%</b>
<b>グループ合計</b>	<b>24,698</b>	<b>5.0%</b>	<b>0.8%</b>	<b>5,909</b>	<b>0.0%</b>	<b>8,192</b>	<b>8.0%</b>	<b>8,221</b>	<b>9.9%</b>	<b>2,376</b>	<b>-6.8%</b>

付録 2: 事業純利益計算書

2014 年度第 3 四半期	グループ合計			医薬品			ワクチン			動物用医薬品			その他	
	(単位:100 万ユーロ)	Q3 2014	Q3 2013 <sup>(1)</sup>	前年度比	Q3 2014	Q3 2013 <sup>(1)</sup>	前年度比	Q3 2014	Q3 2013 <sup>(1)</sup>	前年度比	Q3 2014	Q3 2013 <sup>(1)</sup>	前年度比	Q3 2014
純売上高	8,781	8,432	4.1%	6,815	6,674	2.1%	1,451	1,300	11.6%	515	458	12.4%	-	-
その他収益	87	86	1.2%	69	69	-	9	9	-	9	8	12.5%	-	-
売上原価	(2,864)	(2,870)	(0.2%)	(2,036)	(2,133)	(4.5%)	(629)	(580)	8.4%	(199)	(157)	26.8%	-	-
純売上高に占める割合	(32.6%)	(34.0%)		(29.9%)	(32.0%)		(43.3%)	(44.6%)		(38.6%)	(34.2%)			
売上総利益	6,004	5,648	6.3%	4,848	4,610	5.2%	831	729	14.0%	325	309	5.2%	-	-
純売上高に占める割合	68.4%	67.0%		71.1%	69.1%		57.3%	56.1%		63.1%	67.5%			
研究開発費	(1,146)	(1,182)	(3.0%)	(987)	(1,011)	(2.4%)	(121)	(133)	(9.0%)	(38)	(38)	-	-	-
純売上高に占める割合	(13.1%)	(14.0%)		(14.5%)	(15.1%)		(8.3%)	(10.2%)		(7.4%)	(8.3%)			
販売費および一般管理費	(2,193)	(2,012)	9.0%	(1,859)	(1,706)	9.0%	(170)	(154)	10.4%	(164)	(152)	7.9%	-	-
純売上高に占める割合	(25.0%)	(23.9%)		(27.3%)	(25.6%)		(11.7%)	(11.8%)		(31.8%)	(33.2%)			
その他の当期営業損益	39	28		57	33		2	(1)		1	(1)		(21)	(3)
関連会社*および合弁会社持分利益	43	38		22	3		21	36		-	(1)		-	-
非支配株主に帰属する純利益	(31)	(36)		(31)	(37)		-	1		-	-		-	-
事業営業利益	2,716	2,484	9.3%	2,050	1,892	8.4%	563	478	17.8%	124	117	6.0%	(21)	(3)
純売上高に占める割合	30.9%	29.5%		30.1%	28.3%		38.8%	36.8%		24.1%	25.5%			
財務収益(費用)	(139)	(123)												
法人税	(642)	(566)												
法人税率**	25.0%	24.0%												
事業純利益	1,935	1,795	7.8%											
純売上高に占める割合	22.0%	21.3%												
1 株当たり事業純利益*** (単位:ユーロ)	1.47	1.36	8.1%											

\* 税控除後

\*\* 税引前事業利益、関連会社、非支配持分に基づいて算出

\*\*\* 2014 年度第 3 四半期の 13 億 1,300 万株、前年同期の 13 億 2,350 万株という期中平均発行済み株式数に基づく

(1) IFRIC 21 への移行の影響を含む



2014年度 年初から9カ月間	グループ合計			医薬品			ワクチン			動物用医薬品			その他	
	(単位:100万ユーロ)	9M 2014	9M 2013 <sup>(1)</sup>	前年度比	9M 2014	9M 2013 <sup>(1)</sup>	前年度比	9M 2014	9M 2013 <sup>(1)</sup>	前年度比	9M 2014	9M 2013 <sup>(1)</sup>	前年度比	9M 2014
純売上高	24,698	24,494	0.8%	20,332	20,196	0.7%	2,797	2,757	1.5%	1,569	1,541	1.8%	-	-
その他収益	241	267	(9.7%)	195	224	(12.9%)	23	21	9.5%	23	22	4.5%	-	-
売上原価	(7,988)	(8,085)	(1.2%)	(6,082)	(6,307)	(3.6%)	(1,329)	(1,275)	4.2%	(577)	(503)	14.7%	-	-
純売上高に占める割合	(32.4%)	(33.0%)		(29.9%)	(31.2%)		(47.5%)	(46.3%)		(36.8%)	(32.6%)			
売上総利益	16,951	16,676	1.6%	14,445	14,113	2.4%	1,491	1,503	(0.8%)	1,015	1,060	(4.2%)	-	-
純売上高に占める割合	68.6%	68.1%		71.0%	69.9%		53.3%	54.5%		64.7%	68.8%			
研究開発費	(3,473)	(3,524)	(1.4%)	(3,012)	(3,019)	(0.2%)	(351)	(382)	(8.1%)	(110)	(123)	(10.6%)	-	-
純売上高に占める割合	(14.1%)	(14.4%)		(14.8%)	(14.9%)		(12.5%)	(13.9%)		(7.0%)	(8.0%)			
販売費および一般管理費	(6,526)	(6,458)	1.1%	(5,580)	(5,507)	1.3%	(441)	(455)	(3.1%)	(505)	(496)	1.8%	-	-
純売上高に占める割合	(26.4%)	(26.4%)		(27.4%)	(27.3%)		(15.8%)	(16.5%)		(32.2%)	(32.2%)			
その他の当期営業損益	68	198		76	163		3	6		18	(2)		(29)	31
関連会社*および合弁会社持分利益	82	59		55	30		27	32		-	(3)		-	-
非支配株主に帰属する純利益	(96)	(122)		(96)	(123)		-	1		-	-		-	-
事業営業利益	7,006	6,829	2.6%	5,888	5,657	4.1%	729	705	3.4%	418	436	(4.1%)	(29)	31
純売上高に占める割合	28.4%	27.9%		29.0%	28.0%		26.1%	25.6%		26.6%	28.3%			
財務収益(費用)	(309)	(400)												
法人税	(1,678)	(1,557)												
法人税率**	25.0%	24.0%												
事業純利益	5,019	4,872	3.0%											
純売上高に占める割合	20.3%	19.9%												
1株当たり事業純利益*** (単位:ユーロ)	3.81	3.68	3.5%											

\* 税控除後

\*\* 税引前事業利益、関連会社、非支配持分に基づいて算出

\*\*\* 2014年度年初から9カ月間の13億1,580万株、前年同期の13億2,380万株という期中平均発行済み株式数に基づく

(1) IFRIC 21への移行の影響を含む

### 付録 3: 事業純利益から当社株主に帰属する純利益への調整

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 3 四半期	2013 年度 第 3 四半期 <sup>(1)</sup>	前年度比
事業純利益	1,935	1,795	7.8%
無形固定資産の償却 <sup>(2)</sup>	(561)	(689)	
無形固定資産の減損	(35)	(28)	
偶発対価債務の公正価値での再評価	(45)	(68)	
在庫に対する買収の影響から生じる費用	-	(1)	
事業再編費用	(163)	(71)	
米国ブランド処方薬料に関連する追加年度経費 <sup>(3)</sup>	(116)	-	
上記項目の税効果:	261	289	
無形固定資産の償却	188	233	
無形固定資産の減損	13	9	
偶発対価債務の公正価値での再評価	5	23	
在庫に対する買収の影響から生じる費用	-	-	
事業再編費用	55	24	
その他の税目	-	-	
上記の非支配持分帰属分	-	1	
関連会社と合弁会社の事業再編費用、関連会社と合弁会社に対する買収の影響から生じる費用	(86)	(9)	
<b>当社株主に帰属する純利益</b>	<b>1,190</b>	<b>1,219</b>	<b>(2.4%)</b>
<b>連結 1 株当たり純利益<sup>(4)</sup>(単位:ユーロ)</b>	<b>0.91</b>	<b>0.92</b>	

(1) IFRIC 21 への移行の影響を含む

(2) 合併の一部としての無形固定資産の再評価によって生じた償却費に関して、2014 年度第 3 四半期は 5 億 4,000 万ユーロ、前年同期は 6 億 5,800 万ユーロとなった

(3) 負債認識の時期を変更し、2014 年の 1 回限りの「二重」経費につながる 2014 年 7 月に公布された最終 IRS 規則以降の米国での 2013 年度売上高に関連する年間経費

(4) 2014 年度第 3 四半期の 13 億 1,300 万株、前年同期の 13 億 2,350 万株という期中平均発行済み株式数に基づく

事業純利益から連結純利益への調整については、12 ページを参照

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 年初から 9 カ月間	2013 年度 年初から 9 カ月間 <sup>(1)</sup>	前年度比
<b>事業純利益</b>	<b>5,019</b>	<b>4,872</b>	<b>3.0%</b>
無形固定資産の償却 <sup>(2)</sup>	(1,862)	(2,232)	
無形固定資産の減損	(109)	(468)	
偶発対価債務の公正価値での再評価	(177)	(185)	
在庫に対する買収の影響から生じる費用	-	(7)	
事業再編費用	(298)	(230)	
その他の損益および訴訟費用 <sup>(3)</sup>	35	-	
米国ブランド処方薬料に関連する追加年度経費 <sup>(4)</sup>	(116)	-	
上記項目の税効果:	783	1,038	
無形固定資産の償却	639	723	
無形固定資産の減損	39	189	
偶発対価債務の公正価値での再評価	19	43	
在庫に対する買収の影響から生じる費用	-	2	
その他の損益および訴訟費用	(13)	-	
事業再編費用	99	81	
その他の税目 <sup>(5)</sup>	(110)	(109)	
上記の非支配持分帰属分	4	3	
関連会社と合弁会社の事業再編費用、関連会社と合弁会社に対する買収の影響から生じる費用	(118)	(26)	
<b>当社株主に帰属する純利益</b>	<b>3,051</b>	<b>2,656</b>	<b>14.9%</b>
<b>連結 1 株当たり純利益<sup>(6)</sup> (単位:ユーロ)</b>	<b>2.32</b>	<b>2.01</b>	

(1) IFRIC 21 への移行の影響を含む

(2) 合併の一部としての無形固定資産の再評価によって生じた償却費に関して、2014 年度年初から 9 カ月間は 17 億 9,800 万ユーロ、前年同期は 21 億 4,700 万ユーロとなった

(3) 業績には、Alnylam 社持分の初日利益が表示されている

(4) 負債認識の時期を変更し、2014 年の 1 回限りの「二重」経費につながる 2014 年 7 月に公布された最終 IRS 規則以降の 2013 年度売上高に関連する年間経費

(5) 当社株主に支払った配当に対する課税

(6) 2014 年度年初から 9 カ月間の 13 億 1,580 万株、前年同期の 13 億 2,380 万株という期中平均発行済み株式数に基づく

## 付録 4: 連結損益計算書

(単位: 100 万ユーロ)	2014 年度 第 3 四半期	2013 年度 第 3 四半期 <sup>(1)</sup>	2014 年度 年初から 9 カ月間	2013 年度 年初から 9 カ月間 <sup>(1)</sup>
純売上高	8,781	8,432	24,698	24,494
その他収益	87	86	241	267
売上原価	(2,864)	(2,871)	(7,988)	(8,092)
<b>売上総利益</b>	<b>6,004</b>	<b>5,647</b>	<b>16,951</b>	<b>16,669</b>
研究開発費	(1,146)	(1,182)	(3,473)	(3,524)
販売費および一般管理費	(2,309)	(2,012)	(6,642)	(6,458)
その他の営業利益	47	56	163	403
その他の営業費用	(8)	(28)	(95)	(205)
無形固定資産の償却	(561)	(689)	(1,862)	(2,232)
無形固定資産の減損	(35)	(28)	(109)	(468)
偶発対価債務の公正価値での再評価	(45)	(68)	(177)	(185)
事業再編費用	(163)	(71)	(298)	(230)
<b>営業利益</b>	<b>1,784</b>	<b>1,625</b>	<b>4,458</b>	<b>3,770</b>
財務費用	(154)	(147)	(446)	(458)
財務収益	15	24	172	58
<b>関連会社および合弁会社持分利益を除く税引前利益</b>	<b>1,645</b>	<b>1,502</b>	<b>4,184</b>	<b>3,370</b>
法人税 <sup>(2)</sup>	(381)	(277)	(1,005)	(628)
関連会社および合弁会社持分利益	(43)	29	(36)	33
<b>純利益</b>	<b>1,221</b>	<b>1,254</b>	<b>3,143</b>	<b>2,775</b>
非支配持分純利益	31	35	92	119
<b>当社株主に帰属する純利益</b>	<b>1,190</b>	<b>1,219</b>	<b>3,051</b>	<b>2,656</b>
期中平均発行済み株式数 (単位: 100 万株)	1,313.0	1,323.5	1,315.8	1,323.8
<b>1 株当たり純利益 (単位: ユーロ)</b>	<b>0.91</b>	<b>0.92</b>	<b>2.32</b>	<b>2.01</b>

(1) IFRIC 21 への移行の影響を含む

(2) 2014 年度には、当社株主に支払った配当に対する課税を含め、前年同期の 1 億 900 万ユーロに対し、1 億 1,000 万ユーロとなった

## 付録 5: 2014 年の為替感度

### 1株当たり事業純利益の為替感度

- ユーロ/ドルの 1%変動は、2014 年度の 1 株当たり事業純利益に対する 0.5%の影響に相当します。
- ユーロ/円の 1%変動は、2014 年度の 1 株当たり事業純利益に対する 0.1%の影響に相当します。

### 2014年度第3四半期売上高に対する通貨変動リスク

通貨	
米ドル	37.3%
ユーロ	23.1%
日本円	5.5%
ブラジル・リアル	3.5%
中国元	4.3%
ロシア・ルーブル	2.2%
英ポンド	2.2%
メキシコ・ペソ	2.0%
カナダ・ドル	1.5%
オーストラリア・ドル	1.6%
その他	16.8%

### 平均為替レート

	2013 年度 第 3 四半期	2014 年度 第 3 四半期	前年度比
ユーロ/ドル	1.32	1.33	+0.8%
ユーロ/円	131.05	137.74	+5.1%
ユーロ/リアル	3.03	3.01	-0.7%
ユーロ/ルーブル	43.45	48.08	+10.7%

付録 6: 研究開発パイプライン

申請中

<p><b>Toujeo® (U300)</b> インスリン グラルギン 1型・2型糖尿病、米国、EU</p>	N	<p><b>PR5i</b> DTP-HepB-Polio-Hib (ジフテリア・破傷風・百日咳、B型肝炎、ポリオ、ヒブ) 小児用6種混合ワクチン、米国</p>
<p><b>Lemtrada™ (一般名: alemtuzumab)</b> 抗 CD52 モノクローナル抗体 多発性硬化症、米国</p>		<p><b>Fluzone® QIV ID</b> 4価不活化 インフルエンザワクチン皮内接種</p>
<p><b>Cerdelga™ (一般名: eliglustat tartrate)</b> グルコシルセラミド合成阻害剤 ゴーシェ病、EU</p>	N	<p><b>Quadracel®</b> ジフテリア・破傷風・百日咳・ポリオワクチン 4~6歳用</p>

第 III 相

<p><b>LixiLan</b> リキシセナチド+ インスリン グラルギン 固定比率合剤/2型糖尿病</p>		<p><b>alirocumab</b> 抗 PCSK-9 モノクローナル抗体 高コレステロール血症</p>	N	<p><b> Dengue熱</b> 軽度から重度までの  Dengue熱に対するワクチン</p>
<p><b>Lyxumia® (リキスミア) (一般名: リキシセナチド)</b> GLP-1 受容体作動薬 2型糖尿病、米国</p>	N	<p><b>Kynamro® (一般名: mipomersen)</b> アポリポタンパク B-100 アンチセンス 重度の家族性高コレステロール血症ヘテロ接合体 米国</p>		<p><b> クロストリジウム・デファイシル</b> トキシイドワクチン</p>
<p><b>sarilumab</b> 抗 IL-6R モノクローナル抗体 関節リウマチ</p>	N	<p><b>ジェブタナ® (一般名: カバジタキセル)</b> 転移性前立腺がん (一次療法)</p>		<p><b> ロタウイルス</b> 経口弱毒化 4価生ロタウイルスワクチン</p>
<p><b>dupilumab</b> 抗 IL4Rα モノクローナル抗体 アトピー性皮膚炎</p>	N	<p><b>SYNVISC-ONE®</b> 医療機器 変形性関節炎による腰痛</p>		<p><b>VaxiGrip® QIV IM</b> 4価不活化 インフルエンザワクチン</p>
<p><b>patisiran</b> mRNA 阻害剤 家族性アミロイドポリニューロパチー</p>	N			

第 II 相

<p><b>dupilumab</b> 抗 IL4Rα モノクローナル抗体 喘息、鼻ポリープ</p>		<p><b>SAR391786</b> GDF8 モノクローナル抗体 サルコペニア</p>	N	<p><b>狂犬病 VRVg</b> 精製ペロ細胞狂犬病ワクチン</p>
<p><b>valetizumab</b> 抗 VLA 2 モノクローナル抗体 多発性硬化症</p>	N	<p><b>SAR650984</b> 抗 CD38 モノクローナル抗体 多発性骨髄腫</p>	N	<p><b>髄膜炎菌 (4 価 ACYW) 結合型ワクチン</b> 第 2 世代の髄膜炎菌結合型乳幼児用ワクチン</p>
<p><b>SAR156597</b> IL4/IL13 モノクローナル抗体 特発性肺線維症 (IPF)</p>	N	<p><b>SAR3419</b> メイトンシン搭載抗 CD19 モノクローナル抗体 難治性/再発性 B 細胞悪性腫瘍</p>	N	<p><b>結核</b> 遺伝子組換えサブユニットワクチン</p>
<p><b>SAR438714 (ALN-TTRsc)</b> RNAi 家族性アミロイド心筋症</p>	N	<p>併用療法 <b>SAR245409 (XL765) / MSC1936369B</b> PI3K および mTOR を阻害する経口二重阻害剤/ pimasertib 卵巣がん</p>	N	
<p><b>sarilumab</b> 抗 IL-6R モノクローナル抗体 ブドウ膜炎</p>		<p>併用療法 <b>ferroquine / OZ439</b> 抗マラリア薬 マラリア</p>	N	

<b>fresolimumab</b> TGFβ拮抗剤 巣状分節性糸球体硬化症	N
---	---

## 第 I 相

<b>SAR405838</b> (MI-773) HDM2 / p53 拮抗剤 固形がん	N	<b>SAR113244</b> 抗 CXCR5 モノクローナル抗体 全身性エリテマトーデス (SLE)	N	<b>SAR438584</b> (REGN2222) 抗 RSV-F タンパク質モノクローナル抗体 RS ウイルス	N
<b>SAR566658</b> メイタンシン搭載抗 CA6 モノクローナル抗体 固形がん	N	<b>SAR252067</b> 抗 LIGHT モノクローナル抗体 クローン病	N	<b>GZ402665</b> (rhASM) ニーマンピック病 B 型	N
<b>SAR125844</b> C-MET キナーゼ阻害剤 固形がん	N	<b>SAR228810</b> 抗プロトフィブリル AB モノクローナル抗体 アルツハイマー病	N	<b>GZ402671</b> 経口グルコシルセラミド合成酵素阻害剤 ファブリー病	N
<b>SAR260301</b> PI3K β 選択的阻害剤 PTEN 欠損がん	N	<b>SAR425899</b> GLP-1 / GCGR 作動薬 糖尿病	N	<b>GZ402666</b> Neo GAA ポンペ病	N
<b>SAR307746</b> 抗 ANG2 モノクローナル抗体 固形がん	N	<b>SAR342434</b> インスリン リスプロ 糖尿病	N	<b>肺炎連鎖球菌</b> 髄膜炎・肺炎ワクチン	N
<b>SAR245408</b> (XL147) 経口 PI3K 阻害剤 固形がん	N	<b>GZ402663</b> (sFLT-01) 遺伝子療法 加齢黄斑変性症 (AMD)	N	<b>単純ヘルペスウイルス 2 型</b> HSV-2 ワクチン	N
併用療法 <b>SAR405838 / MSC1936369B</b> 固形がん	N	<b>StarGen®</b> 遺伝子療法 シュタルガルト病	N		N
<b>SAR408701</b> 抗 CEACAM5 ADC 固形がん	N	<b>UshStat®</b> 遺伝子療法 アッシュャー症候群 1B	N		N

N: 新規分子化合物

付録 7: 2014 年度第 4 四半期/2015 年度上半期に見込まれる研究開発マイルストーン

製品	イベント	時期
dupilumab(抗 IL4Rα モノクローナル抗体)	アトピー性皮膚炎における第 III 相試験の開始	2014 年度 第 3 四半期
ロタウイルスワクチン	第 III 相試験の開始	2014 年度 第 4 四半期
新規インスリン リスプロ (SAR342434)	糖尿病における第 III 相試験の開始(見込み)	2014 年度 第 4 四半期
Lemtrada™(一般名: alemtuzumab)	多発性硬化症に関する米国の規制当局の決定(見込み)	2014 年度 第 4 四半期
Cerdelga™(一般名: eliglustat tartrate)	ゴーシェ病に関する EU の規制当局の決定(見込み)	2014 年度 第 4 四半期
Alirocumab(抗 PCSK9 モノクローナル抗体)	高コレステロール血症に関する米国および EU での薬事承認申請(見込み)	2014 年度 第 4 四半期
Fluzone® QIV ID(4 価皮内接種)	米国の規制当局の決定(見込み)	2014 年度 第 4 四半期
Fluzone® High Dose(高用量)	米国でのラベル更新(アップグレード)(見込み)	2014 年度 第 4 四半期
dupilumab(抗 IL4Rα モノクローナル抗体)	喘息における第 IIb 相試験の重要な結果(見込み)	2014 年度 第 4 四半期
デング熱ワクチン	優先国での薬事承認申請(見込み)	2015 年度 第 1 四半期
PR5i(ジフテリア・破傷風・百日咳、B 型肝炎、ポリオ、ヒブ)	EU での薬事承認申請(見込み)	2015 年度 第 1 四半期
Quadracel®	米国の規制当局の決定(見込み)	2015 年度 第 1 四半期
Toujeo®(U300)	糖尿病に関する米国の規制当局の決定(見込み)	2015 年度 第 1 四半期
Toujeo®(U300)	糖尿病に関する EU の規制当局の決定(見込み)	2015 年度 第 2 四半期
Lyxumia®(リキスミア)(一般名: リキシセナチド)	ELIXA CV アウトカム試験の重要な結果(見込み)	2015 年度 第 2 四半期



## 付録 8: GAAP (一般会計原則) と異なる財務指標の定義

### 純売上高 (為替レート変動の影響を除く)

「純売上高 (為替レート変動の影響を除く)」での変化に言及する場合は、為替レート変動の影響が排除されていることを意味します。

為替レートの影響は、前期に使用された為替レートで当期の売上高を再計算することによって、排除されます。

### 2014 年度第 3 四半期および 2014 年度年初から 9 カ月の純売上高 (調整前) から純売上高 (為替レート変動の影響を除く) への調整

(単位: 100 万ユーロ)	2014 年度 第 3 四半期	2014 年度 年初から 9 カ月間
純売上高	8,781	24,698
為替レートの影響	81	1,021
純売上高 (為替レート変動の影響を除く)	8,862	25,719

### 純売上高 (グループ構成の変動要因を除く)

以下のとおり、前期の純売上高を修正することにより、グループ構成の変動の影響が排除されます。

- 買収の影響は、買収の対象となった企業から提供された売上高に関する情報に基づき、現在の期間 (企業または製品の権利が取得された期間) に相当する、買収された企業または製品の前期部分の売上高を含めることによって、排除されます。
- 同様に、企業または製品の権利を売却した場合には、該当する前年同期部分の売上高が排除されます。
- 連結方式の変更については、現在の期間に使用された方式に基づいて、前期部分が再計算されます。

### 事業純利益

サノフィは、GAAP (一般会計原則) と異なる主要指標を発表します。この「事業純利益」という指標は「特別項目を除いた調整後純利益」を置き換えるものです。

事業純利益は、当社株主に帰属する純利益から以下の項目を除外したものと定義されます。

- 無形固定資産の償却
- 無形固定資産の減損
- 合併に関連する偶発対価債務の公正価値での再評価
- 買収に関連するその他の影響 (関連会社に対する買収の影響など)
- 事業再編費用<sup>(1)</sup>
- その他の損益 (非流動資産の売却損益<sup>(1)</sup>を含む)
- 訴訟に関わる費用または引当金<sup>(1)</sup>
- 上記の各項目に対する税効果と主要な税務訴訟の影響
- 当社株主に支払った配当に対する課税 (3%)

さらに、事業純利益は、2014 年 7 月に公布された年間ブランド処方薬料に関連する米国最終 IRS 規則を受けて、セグメントの実績に関係なく、2014 年度に損益計算書の販売費および一般管理費に計上される 1 回限りの追加年間経費によって調整されました。

(1) 連結損益計算書の Note B.20. で定義されているとおり、再編費用と売却・訴訟に関わる損益の勘定科目で報告されます。

## サノフィについて

サノフィは、グローバル事業を統合的に展開するヘルスケアリーダーとして、患者さんのニーズにフォーカスした医療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。サノフィは、ヘルスケア分野において 7 つの成長基盤を中核としています。それは糖尿病治療、ヒト用ワクチン、革新的新薬、コンシューマー・ヘルスケア、新興市場、動物用医薬品、および新生ジェンザイムです。サノフィはパリ(EURONEXT:SAN)およびニューヨーク(NYSE:SNY)に上場しています。

## 今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995 年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関する FDA や EMA などの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功するという保証の欠如、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とグループが外部成長の機会から利益を得る可能性に付随する不確実性、為替レートと実勢金利のトレンド、コスト削減方針とその後の変更の影響、期中平均発行済み株式数、ならびにサノフィの 2013 年 12 月 31 日終了事業年度フォーム 20-F 年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成した SEC および AMF に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。